

3月の窓

「2月の窓」で、雪のほとんど積もっていないグラウンドの写真を紹介しましたが、立春を過ぎてからの週末が2週連続の降雪で、今年の冬も大雪となってしまいました。最初の写真が立春の頃、次の写真は大雪が降った後のものです。



冬に逆戻りしたような山形でも、春の訪れを告げるニュースがありました。山形市蔵王半郷の総合施設「まんさくの丘」にあるマンサクが開花したと、2月下旬の新聞に出ていました。マンサク（金縷梅）は、早春に黄色い花がいっせいに咲くことから、雪国に春を届ける木とも言われます。他の花より早く咲くので「まず咲く」が訛って「マンサク」になったとも、いっぱい咲くので「満作」と言ったからだとも言われています。漢字も「満作」や「万作」の字をあてることもあります。

数年前勤務していた高校の卒業式で、詩人・丸山薫の「白い自由画」という詩の話をしたことがありました。丸山薫は、西川町の岩根沢国民学校で、昭和20年4月から23年7月まで教鞭をとり、その間多くの詩を書き、教科書にも掲載されているものも多くあります。その中の「白い自由画」は、次のような書き出しで始まります。

「春」といふ題で

私は子供達に自由画を描かせる

子供達はてんでに絵具を溶くが

塗る色がなくて 途方に暮れる（中略）

春とはいってもまだ雪深い岩根沢では、山も野も真っ白で木の枝ぐらいしか描く色がないので、丸山は空を淡いコバルト色にぬってあげたが、木の枝の間に間違っ

て黄色い絵の具を落としてしまったのです。そして次のように結んでいます。

私はすぐに後悔するが

子供達は却ってよろこぶのだ

「あゝ まんさくの花が咲いた」と 子供達はよろこぶのだ

冬が寒ければ寒いほど、そして雪が多ければ多いほど、春が待ち遠しく感じるものですが、岩根沢の子どもたちも、画用紙の上に咲いたまんさくの花を見て、一足早い春の訪れを喜んだのでしょう。

ここ数年、早春に咲くマンサクを探していたら、山形市の霞城公園と先ほどのまんさくの丘にあることがわかりました。昨年まんさくの丘に行った時には、満開を過ぎていたので、今年は新聞で見たすぐ後に行ってきました。左の写真がセイヨウマンサク、右の写真がマルバマンサクと説明がありました。その後の2枚の写真は、花を拡大して撮影したものです。



「2月は逃げる」とも言われるように、格別に早く過ぎていったように感じますが、本校では様々な行事がありました。

2月6日の放課後、図書委員会主催のカルタ大会（百人一首）がありました。毎年の行事とのことですが、今年は家庭科部とのコラボレーション企画として、出場者全員にスコーンと紅茶、上位者にはワッフルのプレゼントも用意されました。上の句が読まれてすぐ札を取る生徒もいて、白熱した大会となりました。予選で1位

になった生徒4人による決勝戦には、2年生2名と1年生2名が進出し、優勝は2年生の生徒でした。写真は、予選と決勝戦のものです。



建国記念の日の2月11日には、1年生の理系生物選択者約30名が、県立博物館で行われた「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」に参加してきました。このプログラムは、生徒の理科・数学に対する興味・関心と知的好奇心を育成することなどを目的として、県立博物館と高等学校が共同して行っている事業で、私が県立博物館に勤務していた昨年度は、天童高校の生徒さんに来ていただきました。今年度は、天童高校に加えて本校も参加することになり、この日は1月12日に続いて2回目となりました。講師は博物館の学芸員・川上新一先生で、「細胞性粘菌からみた生態系の成り立ち」について、観察・実験・講義などがありました。川上先生は、粘菌についての専門家で粘菌に関する本も出版しており、本校図書館にも寄贈していただきました。また、福島県の高校にも講師として招かれて行くこともあります。写真は、生徒が顕微鏡で観察しているところと、先生の講義を聞いているところです。



2月19日には、南陽市にある「結城豊太郎記念館」友の会会員約20名が、研

修のため本校を訪問してくださいました。結城記念館の加藤館長からの依頼で、南陽8ミリクラブというグループがビデオ教材作成のために本校を訪問されたことは「10月の窓」で紹介しましたが、今度は記念館の友の会で研修に来たいという依頼でした。結城記念館の友の会は、結城豊太郎先生ゆかりの地を訪問して研修を行っているということで、今年は結城先生の母校である山形中学校（現山形東高校）と第二高等学校（現東北大学）を訪問して研修をすることになったのだそうです。結城先生に関する資料は、本校同窓会の事務局で多く保管してあることから、最初に同窓会の事務局を見ていただきました。写真は、同窓会事務局の先生が説明しているところと、熱心に聞いている会員の皆さんです。その後、校内の廊下などに飾ってある結城先生の書を見ていただき、最後に、結城先生と山形中学の関係などを、私からお話させていただきました。



最後に、校内に飾られている芸術作品として、結城先生に関するものを紹介します。「9月の窓」で、「独坐大雄峯」という中国の仏教書からの言葉と「Boys, be ambitious.」という英文の書かれた2つの扁額を紹介しましたが、今回友の会皆さまの訪問前に調べてみると、他にも結城先生の作品があることがわかりました。

一つは、1階中央廊下に飾ってある二行書です。最初の写真がそれで、右下の説明によると、結城先生が書かれた五言古詩で、横書きにすると次のように書かれています。

結構池西楼

疎理池東樹

此道人不知

欲為待月処

読み方としては、

「結構なり池西の楼

疎理たり池東の樹

此の道人は知らず 月を待つ処となさんと欲す」

との説明がありました。左上に「昭和丁丑（ひのとうし）」とあることから、昭和12（1937）年に書かれたものとわかります。この年は、結城先生が大蔵大臣として、母校を訪問された年でもあります。左下には、「臨雲豊」の署名があります。もう1枚の写真は、校長室に飾ってある色紙で、

「蘭在幽谷（蘭幽谷に在り）」

と書かれています。本校に以前勤務された書道の先生に聞いた話によると、結城記念館からいただいたものとのことでした。友の会の皆様が来られた時に、この色紙も見ていただいたところでした。

